

公益社団法人

福岡県作業療法協会会報

第115号 平成26年4月15日発行

(事務局)

〒802-0816 北九州市小倉南区若園2丁目6-21 ルミエール若宮101号

TEL 093-952-7587 発行責任者 志井田 太一 編集責任者 菅沼 一平

ホームページアドレス:<http://www.fuku-ot.org/>



特集

「事例報告 アルツハイマー型認知症高齢者に対する

絵カード評価法を用いた早期介入」



巻頭言:「気分一新」 公益社団法人 福岡県作業療法協会 代表理事 志井田 太一	・・・1
会長行動	・・・1
特集: 「事例報告 アルツハイマー型認知症高齢者に対する絵カード評価法を用いた早期介入」 専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科 青山 克実	・・・2
理事会報告	・・・8
各部委員会からのお知らせ	・・・13
Occupation 遠賀中間医師会おかがき病院 高崎弘嗣	・・・19
リレーエッセイ 相生会宮田病院附属山桜クリニックデイケア 田辺麻由子 誠愛リハビリテーション病院 吉田 久美香	・・・20
第18回福岡県作業療法学会 報告!	・・・21
会員動向調査	・・・23

巻頭言 「気分一新」

公益社団法人 福岡県作業療法協会 代表理事 志井田 太一

平成10年4月、北九州市小倉南区若園に、都道府県の作業療法士会としては多分全国初となる待望の事務所を開設し、専任の事務員さん1名を雇用しました。当時の会員数は675人でした。あれから15年が経ち、事務員さん1名を増員し2名体制をとるようになりましたが、会員数は4倍弱の2,561人となり事務作業が増大したことはもちろんのこと、平成24年4月1日より公益社団法人としての事務処理の厳密さが求められるようになり（特に財務管理）、保管する文書類や資料の蓄積などで初代の事務所が手狭になってしまいました。

そこで、現状の問題点を解消するために、平成26年度法人部門の運営事業の大きな一つとして、事務所移転を行うことになりました。定款上は、「本協会は、主たる事務所を福岡県北九州市に置く。」と定めており、条件を照らし合わせながら現在物件を探索中です。この会報が皆さんのお手元に届く頃には、場所が決定し引越しの手続きを行っている頃だと思います。事務所の引越しや、新事務所での事務作業に慣れるまでに、会員の皆さまには若干の混乱が生じるかもしれませんが、このような事情を推察していただいてご了承のほどよろしくお願ひします。新事務所については、様々なことが決定次第、県協会ホームページや会報で詳しくお伝えすることになります。

新しい事務所は、20人程度が集まって会議ができるようにするなどスペースを十分に確保し、これから先10年程度を見越して、これからの事務所運営に必要な機能や、将来を見据えた県協会運営・活動の方向性などを折り込んでいきたいと思ひます。皆さんからも、アイデアやご要望があればお知らせください。

これを機会に、平成26年度は気分を一新して、福岡県民への作業療法をとおした貢献と作業療法のますますの発展に向け、役員一同さらに突き進みたいと思ひます。会員の皆さまのご協力とご支援をよろしくお願ひします。

会長行動（平成26年1月～3月）

- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| 1月10日 | 平成25年度 福岡県作業療法協会
第2回三役会 出席
場所：花わさび | 2月6日 | 平成25年度第2回福岡県高次脳機能障害
相談支援体制連携調整委員会 出席
場所：福岡県吉塚合同庁舎 |
| 1月13日 | 福岡県言語聴覚士会
一般社団法人創立記念式典・祝賀会 出席
場所：天神モノリス | 2月8日 | 平成26年度第3回九州支部会会議 出席
9日 九州士会長会主催研修会 出席
場所：佐賀市市民活動センター |
| 1月15日 | 「むかしMattoの町があった」を上映する
会・北九州 実行委員会 出席
場所：ウェルとばた | 2月11日 | 高松鶴吉先生 通夜、告別式 参列
12日 場所：サンレー霧ヶ丘紫雲閣 |
| 1月25日 | 杉原素子先生、富岡詔子先生歓迎会 参加
場所：ざかぐら | 2月15日 | 現職者共通研修会 講師
場所：北九州国際会議場 |
| 1月30日 | 北九州市すこやか住宅推進協議会
建築・福祉新春交換会・交流会 出席
場所：小倉リーセントホテル | 2月15日 | 第18回福岡県作業療法学会 参加
16日 平成26年度福岡県作業療法協会
社員総会 出席
場所：北九州国際会議場 |
| 2月1日 | 平成25年度福岡県三士会合同
訪問リハ研修会 出席
場所：麻生自動車工科大学校 | 3月1日 | 産業医科大学 蜂須賀研二教授
退任記念式典 出席
場所：リーガロイヤルホテル小倉 |
| 2月3日 | 平成25年度第6回福岡県作業療法協会
理事会 出席
場所：らそうむスポーツガーデン | | |
| 2月4日 | 平成25年度第2回北九州市障害程度区分
認定審査会調整委員会 出席
場所：北九州市総合保健福祉センター | | |

特集「事例報告

アルツハイマー型認知症高齢者に対する絵カード評価法を用いた早期介入」

専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科

青山 克実

※本稿は、現在作業行動研究に登校中の事例報告の一部です。

I. はじめに

前号で、人間作業モデル(以下、MOHO)¹⁾の基本的概念と作業遂行のダイナミクスなどの概要について報告した。今回は、アルツハイマー型認知症と診断された精神科病院に入院した男性に対し、MOHOに基づき、井口らが開発した「認知症高齢者の絵カード評価法(以下、APCD)²⁾を用いて介入し、約5ヶ月で救護所ではあるが、退院しデイケアを利用した地域での生活へ結びつけることができた事例について紹介する。なお、事例報告に際し、本人及び施設に対して、報告の内容などを口頭及び文書にて説明し、書面にて同意を得ている。

※APCDは実際の作業場面が描かれた70枚の絵カードを用いることで、作業療法士は認知症高齢者の意味のある作業とその文脈を評価でき、認知症高齢者に対してクライアント中心の考え方と作業に焦点を当てた作業療法を促進できる評価法である。

II. 事例紹介

1. 基本情報及び現病歴

Aさん、60代後半の男性である。診断名はアルツハイマー型認知症である。既往歴はX-4年に椎骨脳底動脈狭窄症、X-1年に糖尿病の診断を受けている。独居にて生活していたが、X-4年頃より物忘れがみられ、X-1年より生活保護申請し受給している。X年、大学病院でアルツハイマー型認知症と診断され、その後はT病院で通院治療しながら、なんとか独居で生活できていたが、認知機能の低下が顕著となるに従って、受診も滞りがちとなった。X+1年はじめに、見ず知らずの人からロト6に関する電話があり、次第にのめり込み金銭管理ができなくなり、幻覚・妄想もみられるようになる。その後、深夜に徘徊し、自宅の鍵をなくして近隣に迷惑をかけ警察に保護される。友人2人と生活保護課職員同伴にて当院受診し、X+1年5月中旬に医療保護入院となった。

2. 生活歴

H市にて3人兄弟の第2子として出生し、高校卒業後、水産会社に就職し5~6年勤めた。その後、東京で某格闘技ジムに入り30歳までに日本チャンピオンになる。その後は、都内で水商売をしていたが、50歳過ぎに経営不振で廃業し、帰郷した。その後、2か月ほど漁船に乗った後、再び水商売をはじめが、X-8年に廃業した。この間、家を売却し、2度の結婚と離婚をした。家族と疎遠になった後は、内縁の妻と生活していたが、生活保護を申請し

てからは独居生活を送っていた。独居生活後も、内縁の妻が身の回りのことや金銭管理などの面倒をみていたようである。入院後は面会も滞り、退院後の生活についての面倒は限界であることを担当の精神保健福祉士に話している。離婚した妻や娘との連絡も取れない状態である。

職歴は、水産業(漁船乗り)、プロ格闘家、飲食業経営である。内縁の妻と生活するようになってからは、庭の手入れや植物への水やりなどを役割としていた。趣味は、釣りやスポーツ、園芸、飲酒などと本人がかたっていた。生活保護受給中で、要介護認定は申請していない。

3. 入院後の生活の様子

入院後、1ヶ月ごろまでは、軽度のせん妄から夜間の徘徊と不眠が見られ、日中眠気を訴えることがあったが、徐々に落ち着いてきていた。その後、病棟でのOT活動などに参加するようになるが、集中力や持続性にかけて途中で離席することが多く、自室にて過ごすことが多い状態であった。個別OTの導入が検討され、同年6月下旬から開始した。

III. 作業療法評価

1. 生活の概況(作業機能状態)

日常生活活動(以下、ADL)については、セルフケアや入浴、排泄、食事などの行為自体は保たれているが、置き場所や預けた日用品の事を忘れてしまうことが時々あり、ナースステーションに尋ねてくることがある。余暇・遊びについては、日中、部屋で過ごすことが多く、時々他患者と交流している場面もみられるが、Nsや他患者との会話では、取り繕うように相手に合わせ、所々チグハグさがみられる。病棟の活動にも声をかけると参加するが、離席し帰室していることが多く、持続性に欠ける。本人は何か用事を思い立って離席するが、活動に参加していたこと自体を忘れていたことが時々見られた。物忘れや本人が尋ねてきたことに対応する際には、怪訝な表情を見せたり、「そうだった、そうだった」などと取り繕った対応が目立つ。

病院・ナースステーションのことを「事務所」と表現し、「仕事をしているから」と語る。仕事内容はトラブルの仲裁とのこと。実際に口論になった他患者間に入り、仲裁することもある。ただ、他者とのトラブルなどに発展することはなかった。

入院後、難渋する認知症の行動・心理症状(以下、BPSD)はないが、1ヶ月頃まで夜間せん妄が数回見られ、日中眠気を訴え、ウトウトすることがあった。OT介入時には睡眠状況も少しずつ安定してきていたが、夜間は徘徊することが時々あった。朝・昼間の眠気の訴

えも少なくなっていた。認知症行動障害尺度(DBD)は、20/112点であった。

「もう一度お店をやろうと思っている」と語るが、経済的・社会的背景、医学的側面から考えると現実性は疑問であった。また、先述した本人の仕事に対する認識も含めて作業同一性は混沌としていた。作業有能性については、「今は縛られている」と語るなど、作業的生活が構築されているとは言えない状況であった。

2. 人間作業モデルスクリーニングツール(以下、MOHOST)³⁾: 54/80点(表1)

初回面接場面、作業に関する自己評価改訂版(以下、OSA-II)⁴⁾の質問項目を用いた半構成的な面接、生活状況に関する看護師からの情報をもとに採点した。改訂版長谷川式簡易知能評価スケール(以下、HDS-R)の得点は10点だったため(OSA-IIの適応の目安はHDS-R17点以上)、客観的な観察事実より評定可能なMOHOSTを選択し、OSA-IIの質問項目を参考にしながら半構成的な面接を行った。

<意志>

個人的原因帰属については、行為の一つ一つに対する自己効力は保たれているが、記憶障害や「ここはどこでしたかね」といった見当識の問題などの認知機能の問題に対する自覚はあるものの「何かおかしい」といった状態で混沌としていた。「仕事」することや他者の面倒を見ることに価値を見出しており、興味も釣りやスポーツ、園芸、飲酒などと表現するが、取り組むことはできていない状況であった。

<習慣化>

日課は特になく、構造化された病棟生活に受動的に適應している状態であった。行為自体のパターンは維持されているものの、日用品の保管場所や生活スケジュールの変化などから行為を1日の中で効果的なパターンとして組織化することは難しい状況であった。役割については、「他者の仲裁」と語り、スタッフもトラブル発展しない限り見守っていた。ただ、自分が仕事をするためにここ

(病院)にいるのか、何か治療するためにここ(病院)にいるのかについてはしっかりと認識していなかった。

<遂行能力>

身体機能面に特に生活の支障になるような障害はなかった。運動技能面ではやや立ち上がりや屈むことなどに努力を要する場面はあったが、歩行や姿勢などは保たれている。精神・認知機能面では、HDS-R10点、MMSE18点であった(入院時)。減点項目は、記憶力、遅延再生、見当識(場所・時間)、計算力、空間認知(図形模写)であった。処理技能としては、一つ一つの行為は保たれているが、日用品の保管場所を忘れていたり、一旦場を離れると活動に参加していたことを忘れていたりなど、効率良く効果的に生活の中に配置することなどには声かけが必要な状態であった。コミュニケーションと交流技能は、会話の内容がチグハグで取り繕うような場面があるが、それ以外は病棟内でのスタッフや他患者関係性も保たれていた。

<環境>

閉鎖病棟に入院中で、「今は縛られているからね」と語るなど、好きなことや生産的なことをする機会や物理的環境は制限されていた。

3. APCD(表2)

「とても重要である」:37作業、「あまり重要でない」:29作業、「全く重要でない」:4作業であった。特にがあった作業は、「花の水やりをする」「庭の手入れをする」「体操をする」「オセロをする」であった。「(現在の内縁の)妻が生花の賞をなんどももらった、自分は草取りや水やりを一生懸命手伝っていた。自分がやらないといけない仕事だった」といった語りが数回繰り返し聞かれた。その他に「自分の健康のためにも運動は大事」「体のどこかを使っていないと頭が悪くなる…」「ギャンブルをやっていた、カブとかカードとか」などの文脈を語っていた。また、「お酒をたらふく飲みたい」「釣りがしたい」「(過去に日本チャンピオンになった)格闘技ももう一度やってみたい」なども語っていた。

<表1>MOHOST評定の変化

■: 初回評定時, ○: 再評定時に変化した項目

動機づけ (意志)				作業のパターン (習慣化)				コミュニケーション と交流技能				処理技能				運動技能				環境				
能力 の評価	成功 への 期待	興味	選択	日課	適 応 性	役 割	責 任	非 言 語 的 技 能	会 話	言 語 的 表 現	関 係 性	知 識	タ イ ミ ン グ	組 織 化	問 題 解 決	姿 勢 と 可 動 性	協 調 性	力 と 努 力	エ ネ ル ギ ー	物 理 的 空 間	物 的 資 源	社 会 的 集 団	作 業 的 欲 求	
																								F
A	A	○A	○A	○A	○A	A	A	A	○A	○A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	○A	A
I	I	I	I	I	I	○I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	○I	○I	I	I
R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R

混乱を招き、作業遂行の機会が乏しい閉鎖病棟という首尾一貫した環境の中で、患者役割へと導こうとしている状態にあると判断した。このような悪循環が更なる認知機能の低下や作業参加や遂行の問題、BPSDへとつながるリスクが高い状態にあると考えられた。

IV. 作業療法介入計画

1. 基本方針

MOHOリーズニングより、問題の中核は「習慣化(習慣と役割)」であると判断した。そのため、AさんがAPCDで「とても重要である」に位置付け、今まで習慣にしてきた「花の水やり」「庭の手入れ」という作業への参加を通して、作業的生活をデザインし、習慣化して行くことから介入を開始する。作業を通して有能性に働きかけ、現在の悪循環から良循環への転換を図って行きたい。また、病棟での「仕事」として位置付けている「トラブルの仲裁」は、他患者とのトラブルにならない限り見守ることを病棟スタッフと申し合わせた。日常生活活動については、記憶障害による日用品の保管場所の確認や生活課題の把握については、サポーターに関わり、保たれている行為のパターンを維持できるよう見守ることとした。内縁の妻との問題や介護保険の申請、入院前の住まいと退院後の入居先の調整は、担当の精神保健福祉士(以下、PSW)と情報交換しながら進めて行くこととした。

2. 作業療法プログラム

面接とAPCDで「とても重要である」と答え、特に作業の語りが聴取できた「庭の手入れ」「花の水やり」として、OT室の裏庭の手入れや花や野菜への水やりをプログラムとして立案した。週2回、特に病棟課題(体操や処置、服薬など)がなく、15:00~16:00に実施する。はじめは、一対一の個人作業療法から実施し、作業自体が習慣化してきたら、パラレルな場でのOTプログラムに移行していく。

既に植えている植物への水やりを中心に行うが、裏庭で本人が気になる場所、その環境の中で導かれた作業については制限せず支援するように関わる。こちらから提案し、指示するのではなく、本人が組み立てる作業を支援、見守るスタンスで関わって行く。

V. 経過(X+1年8月6日~10月24日)

OT室裏庭の見学から始めた。雑草のように茂っている朝顔、プランターで栽培している野菜、生い茂りお互いが絡みあっている南天や無花果、小さな杉の木に関心を向け、表情も引き締まっている。開始当初から、興味は高く、目についた所から水やりや除草作業などに取りかかる。それらの行為自体は保たれていることから、安全の確認のために見守りと必要な環境調整を中心に関わった。作業の工程間に他の植物などに注意が向くとそちらに取り組むなど連続性が保てないこともあるが、助言を求めることなく、自分で行為を計画し遂行することができている。

開始当初は、個別OTの時間に病棟に迎えに行き、促

してようやく参加する形であった。しかし、開始後3週目からは病棟で筆者や共著者である病棟担当OTRを見かけると笑顔で挨拶し、「今日は行けるの?」などと声をかけてくるようになる。また、手入れしている植物の状況を確認するなどの発言も聞かれるようになった。作業自体が習慣化されてきたと判断し、9月中旬には個人OTから既存のOTプログラム(パラレルな場での個別OT)へと導入し、「庭の手入れ」を継続して支援した。

介入時には、病棟までの移動中、「ここは何処ですかね」と話し、病院であることを伝えると怪訝そうな表情をみせる。「おかしくなったのでしょうか?」との発言も聞かれた。また、病棟のナースステーションを事務所と表現したり、仕事を他患者のトラブルの仲裁の仕事をしているといった発言もあり、自分のいる場所やその理由、自分の状況などが混沌しているようだった。病棟での生活状況には大きな変化なく記憶障害による生活パターンの確認やチグハグさはみられるが、作業への参加と病棟での治療活動、記憶障害に対する看護師の生活支援を続けるうちに、「頭がおかしくなってね」などと記憶障害のことや治療のために病院に入院していることも本人なりに認識し始めているような発言が聞かれるようになった。また、病院で仕事をしているという発言もなくなり、「庭の手入れ」を「楽しみ」と表現し、興味や楽しみ作業として習慣化され、作業に対する動機は高い状態を保つことができていた。花壇創りの途中で抜けてしまった鍬も木ネジなどを使って自らが修理したり、OTRにアドバイスや提案することも増え、1時間程度集中して取り組み、終了時は笑顔でスタッフに挨拶し帰棟する。また、「自然に生えていた紅葉の鉢への植え替え」「南天や無花果、杉の木の剪定」「朝顔の手入れと除草」「寄せ植え用の花壇の下地づくり」「朝顔と紅葉の寄せ植え」「除草作業」などにも取り組んだ。OTRが病棟に行くと「今日は(庭の手入れ)やらないの?」「今日は何をしようかね」と庭の手入れに対して意欲的であり、庭の手入れが本人の中で定着してきた。病棟内での活動(塗り絵や音楽鑑賞)への集中力も以前に比べ増し、持続できる時間が増えた。

開始当初から、内縁の妻の面会も滞っており、「嫁のことが気になる」「どうなっておるのか心配でね」などと話している。担当PSWが内縁の妻との関係や今後の生活の場について平行して調整を進めた。内縁の妻に関しては入院以前からの長い付き合いで金銭管理や身の回りの世話を行っていたようで、彼女は「長く面倒見てきたのでついで」との事である。入院当初より、内縁の妻へ協力を要請していたが、協力は難しい状況が確認され、10月中旬、本人にも伝えられた。予測していたことだったのか、本人に動揺はさほどみられなかった。今後は単身での生活か、生活保護法下の入所施設である病院近隣の救護所への入所が検討された。

VI. 結果

<DBD:20/112点→16/112点>

夜間は徘徊することなくしっかり睡眠を取ることができ

ている。また、日中はベッドに横になり寝入ることもほとんどなくなった。日常生活の行為の組み立てなどのチグハグさは変化ないも、顕著なBPSDにつながることはなく、穏和な状態で生活できている。

<MOHOST54/80点→64/80点>(表1)

Aさんにとって興味や価値ある作業に参加する機会、場、道具などの環境的支援が得られ、「庭の手入れ」が日課として定着した。記憶障害については変化なく、内縁の妻との関係の解消などの状況があったが、作業に対する可能性や自己効力、作業への動機の程度は保たれている。

X+1年10月28日、一度の見学を経て救護所入所に入所する形で退院し、現在は週に1回当院の精神科デイケアへの通所と生活を継続することができている。

Ⅶ. 考察

【Aさんの作業的变化について】

Aさんは記憶機能や見当識の低下という内的変化と、「縛られている」と表現する病院という生活環境への外的変化の中で、作業機能障害を抱え、意志、習慣化、遂行能力、環境のダイナミクスの悪循環が生じていた。今回、そのAさんに対して、MOHOに基づき介入を行った。Aさんにとって「庭の手入れ」という作業は、単に興味のある作業というだけでなく、「世話を受ける」という立場にあった自分の可能性を維持するために必要な役割であり、価値を置く作業ではなかったかと推察された。Aさんは記憶機能や見当識の低下により自分自身や置かれている状況を十分に把握できずにいることで、自身の可能性に疑問を感じ、不安を抱えている状態だったと考えられた。人の意志は、探索→可能性→達成といった変化の中で発達していくと考えられている⁵⁾。Aさんにとって、価値、興味、役割と結びつきの強い「庭の手入れ」という作業を通した「予想→選択→経験→解釈」というプロセス⁶⁾の繰り返しは、自己の能力や価値、役割への探索の機会となった。そして、作業を通したポジティブな経験や解釈がAさんの可能性への維持につながったものと考えられた。内縁の妻からの協力や支援を失い、今後の生活が見通せない状況の中で、作業療法士はAさんにとって意味のある作業への参加を支援することや首尾一貫した環境への関わりを行うことで、Aさんは新たな作業的存在としての生活パターンを再構築することができた。また、APCDを通して得られた作業への参加の支援が、認知機能の低下を緩やかなものにし、新たなBPSDを生じさせることなく早期に退院、救護所入所に結びついた一つの要因になったのではないかと考えられた。

【MOHO理論やAPCDを用いた介入の有効性について】

認知症の初期から中等度障害の時期までの作業療法の主な目的は、クライアントが望む作業が出来るようにすることによって、自己効力感を高め、人間作業を取り戻すことである。また、意味があって目的のある作業が認知症の中核症状の進行やBPSDの予防になるともいわれて

いる⁷⁾。

MOHOは、環境のなかで作業が動機づけられて日常生活へと結びつけ作業機能障害、および作業の意味と満足感に着目している。また、人間を全体的にとらえる全体論的な実践モデルである⁸⁾。意味のある作業を通して人がどのように変化し発達するかについての見方も提供している⁹⁾。認知機能が低下し、その他の様々な要因によって作業機能障害が引き起こされ、生活が破綻へと向かおうとしている認知症高齢者への支援を考えると、人を作業的存在へと導くMOHOは最適な実践理論の一つであると考えられる。

一方、認知高齢者にとって意味のある作業をクライアントと協業することは困難な場合が多い。山田¹⁰⁾は、認知症高齢者に対する作業療法士に対してニーズ調査を実施し、作業の目標を決める上で用いる評価法について、特に使っていないが50%、具体的な評価法はHDS-R、MMSEが残りの50%であることを報告している。今回、APCDを用いて協業することで、Aさんの作業に対する価値や興味、語りをひきだすことができた。井口らは、APCDの有効的な活用について、認知症高齢者にとって意味ある作業を明らかにし、クライアント中心のOTを促進する有用な評価法であることを示している¹¹⁾。APCDは、作業の目標を協業することが困難なケースが多い認知症高齢者の作業への参加を支援して行く上で、有効なツールであると考えられた。今後も様々な事例で活用し、その有効性について検討していきたいと考える。

謝辞

本事例を報告するにあたり、快く同意頂いたAさん、また、このような機会と実践の場を提供いただいた医療法人 水の木会 萩病院とスタッフの皆様から感謝申し上げます。

文献

Kielhofner G(山田孝・監訳): 人間作業モデル 理論と応用 第4版. 協同医書出版, 2012.

山田孝監修・井口智也・小林法一: 認知症高齢者の絵カード評価法(APCD). 日本作業行動学会, 2014.

山田孝・監訳: 人間作業モデルスクリーニングツール 使用者手引書. 日本作業行動学会, 2008.

Baron K, Kielhofner G, Lyenger A, Goldhammer V, Wolenski J (山田孝, 石井良和・訳): 作業に関する自己評価使用者手引き 改訂第2版(2.1). 日本作業行動学会, 2004.

de las Heras, et al(山田孝・訳): The Volitional Questionnaire(VQ) Ver.4.1, 日本作業行動学会, 2007.

Kielhofner G(村田和香・訳): 意志. 山田孝・監訳, 人間作業モデル 理論と応用 第4版, 協同医書出版, 34-54, 2012.

青山克実: 認知症の作業機能障害とプログラム立案のコツ. 石井良和・京極真・長雄眞一郎(編), 精神障害領域の作業療法, 中央法規, 362-375, 2010.

竹原 敦: 人間作業モデル. 宮口英樹・監修, 認知症を

もつ人への作業療法アプローチ-視点・プロセス・理論-,
メジカルビュー社, 96-103, 2014.

Kielhofner G(石井良和・訳): 行うこと, なること, 作業の
変化と発達, 山田孝・監訳, 人間作業モデル 理論と応用
第4版. 協同医書出版, 140-155, 2012.

山田 孝: 認知症高齢者に対する作業療法士のニーズ
調査. 作業行動研究, 17(2), 136, 2013.

井口知也, 山田孝, 小林法一: 認知症高齢者の絵カー
ド評価法を用いた2事例の報告~認知症高齢者に対する
クライアント中心の考え方と作業に焦点を当てた作業療
法実践を目指して~. 作業行動研究, 17(2), 75-87,
2013.

後記

前号と合わせて, MOHOの概要や実際について紹介し
ました. 私がMOHOと出会ったのは約8年前です. 初めて
講習会を聞いた時, それまで, うまく説明できなかった作
業療法の効果や作業の意味について, 明確な言葉で説
明することができることに驚いたことを覚えています.

MOHOを学ぶようになって私自身の実践が変化したわけ
ではありません. 説明の仕方やクライアント, 作業の捉え
方が変化しただけのような気がします. MOHOと聞くと
ハードルが高いような印象を持たれやすいですが, 実は
作業療法士が臨床の中で出会う, または自分自身の生
活の中で起こる様々な身近な事柄や変化を「MOHOの言
葉」で説明しているという捉え方もできていると思っ
ています. 決して特別な理論ではありません.

MOHOは, 作業療法士が基盤として大切なグランド理
論(領域に関係ない作業療法の実践モデル・理論)です.
どのような領域, 回復過程においても基盤として皆さんに
も興味を持って頂けたらと思っています.

平成25年度 第5回 公益社団法人福岡県作業療法協会 理事会議事録

- I. 日 時 : 平成25年12月2日 (月) 19時00分～22時30分
- II. 場 所 : 株式会社 らそうむ スポーツガーデン
- III. 理事総数 : 20名
- IV. 出席理事数 : 19名
- V. 出席者氏名 : 志井田太一, 竹中祐二, 座小田孝安, 中川昇, 白山義洋, 丹羽敦, 深町晃次, 田中真純, 菅沼一平, 榎本孝史, 濱本孝弘, 佐藤稔, 手島智康, 福田裕樹, 轟木健市, 大田登志樹, 平岡敏幸, 玉野和男, 大社学美, (以上、理事) .
吉田秀樹, 原口健三 (以上、監事) .
鐘ヶ江秀俊, 田邊慎一, 藤崎実知子 (以上、事務局)
- 欠席者氏名 : 中山仁 (以上、理事) (敬称略)
- VI. 議長選任
定款第32条に基づき, 議長に志井田代表理事を選任した.
- VII. 審議事項
1. 代議員選挙規程について
選挙管理委員会藤崎氏から, 代議員選挙管理規程の改定について提案があった. 被選挙人の権利などについて休会制度創設に合わせた形で改定され, 平成26年度より施行することが定款第29条に基づき承認可決された.
 2. 平成26年度事業計画及び予算案について
平成26年度事業計画及び収支予算案について中川事務局長, 財務部鐘ヶ江氏から報告があり定款第38条に基づき承認された.
 3. 平成26年度日本作業療法士協会「特別表彰」の推薦について
手島規約委員会担当理事から, 平成26年度日本作業療法士協会「特別表彰」について18名の候補者の提案があった. 定款29条に基づき承認可決された.
 4. 教育部研修会講師承認について
白山教育部担当理事から, 以下のように研修会講師を依頼することが報告され, 経験等講師要件を満たすことが確認され承認可決された.
現職者選択研修会・・・渡辺直美先生, 坂下竜也先生, 曾根川達司先生, 濱本孝弘先生
地域分野研修会・・・富岡紀子先生, 杉原素子先生
 5. 北九州ブロック研修会講師承認について
玉野北九州ブロック担当理事から, 以下のように研修会講師を依頼することが報告され, 経験等講師要件を満たすことが確認され承認可決された.
深町晃次先生 (九州栄養福祉大学 OT) エビデンスのある認知症の作業療法を求めて
 6. 筑豊ブロック研修会講師について
平岡筑豊ブロック担当理事から, 以下のように研修会講師を依頼することが報告され, 経験等講師要件を満たすことが確認され承認可決された.
手島智康先生 (株式会社らそうむ) 地域リハにおける作業を考える
 7. 日本作業療法士協会主催 認知症初期集中支援研修会への派遣について
濱本保健福祉部担当理事から, 日本作業療法士協会が主催する認知症初期集中支援研修会に, 保健福祉部から青山克実氏 (麻生リハビリテーション大学校), 吉田みのり氏 (リカバリーセンターひびき) を派遣することが提案され承認可決された.
 8. 会員の入会について
中川事務局長から, 会員の入会について報告があった. 平成25年10月1日から平成25年11月30日までの間に37名の入会があり定款第7条に基づき入会が承認可決された.

VIII. 報告事項（特記報告のみ記載。）

（代表理事より）

代表理事行動（平成25年10月～平成25年11月）

平成25年第4回公益社団法人福岡県作業療法協会理事会 出席
福岡県作業療法協会三役会 出席
福岡県理学療法士会 公益社団法人移行記念式典・講演会・祝賀会 出席
福岡県理学療法士会・作業療法協会・言語聴覚士会 合同役員会 出席
日本作業療法士協会学会運営委員会 出席
福岡県作業療法協会 中間監事監査 出席
北九州市医師会創立50周年記念式典・講演会・祝賀会 出席
医療とスポーツのシンポジウム 出席
「むかしMattoの町があった」を上映する会・北九州 実行委員会 出席
第24回全国ふうせんバレーボール大会開会式 出席
平成25年度第2回九州支部会 出席
平成25年度九州理学療法士・作業療法士合同士会長会 出席
第35回九州理学療法士・作業療法士合同学会 参加
西日本国際福祉機器展2013 参加
吉田秀樹公認会計士事務所 創立25周年記念式典 出席

九州PTOT合同学会事務局について各県持ち回りで運営されていたが、円滑な運営を図るため鹿児島PT士会が統括することが、九州PTOT合同士会長会において決定した。

（業務執行理事より）

福岡県作業療法協会三役会出席（竹中業務執行理事・座小田業務執行理事）
公益社団法人福岡県介護福祉士会「第18回九州ブロック研修大会inふくおか」（平成25年10月25日開催）及び公益社団法人北九州高齢者福祉事業協会「介護の日」講演会（平成25年11月8日開催）に出席。（座小田業務執行理事）

（監事より）

平成25年11月1日に平成25年度中間監事監査を行った。事業の執行率等について確認し承認した。

（各部・委員会より）

〈教育部〉

生涯教育制度（現職者共通研修、現職者選択研修）の受講登録システムについて確認を行った。

〈学術部〉

第18回福岡県作業療法学会開催の進捗状況について報告。平成25年度ジャーナル「作業療法・福岡」について編集作業中。平成26年度ジャーナル作成について査読規程案を作成準備中。

〈規約委員会〉

日本作業療法士協会表彰規程の改定内容について報告。

X. 次回開催日

平成25年度 第6回理事会

平成25年2月3日（月）19：00～ 場所：株式会社 らそうむ スポーツガーデン

平成25年度 第6回 公益社団法人福岡県作業療法協会 理事会議事録

- I. 日 時 : 平成26年2月3日 (月) 19時00分～22時00分
II. 場 所 : 株式会社 らそうむ スポーツガーデン
III. 理事総数 : 20名
IV. 出席理事数 : 17名
V. 出席者氏名 : 志井田太一, 竹中祐二, 座小田孝安, 中川昇, 白山義洋, 丹羽敦, 深町晃次,
田中真純, 菅沼一平, 榎本孝史, 佐藤稔, 手島智康, 福田裕樹, 轟木健市,
大田登志樹, 平岡敏幸, 玉野和男 (以上、理事) .
吉田秀樹 (以上、監事) .
鐘ヶ江秀俊, 田邊慎一, 藤崎実知子 (以上、事務局)
欠席者氏名 : 中山仁, 濱本孝弘, 大社学美 (以上、理事)
原口健三 (以上、監事) (敬称略)

VI. 議長選任

定款第32条に基づき、議長に志井田代表理事を選任した。

VII. 審議事項

1. 代議員選挙規程について
選挙管理委員会藤崎氏から、代議員選挙管理規程の改定について提案があった。立候補の届け出、選挙方法等における改定が定款第29条に基づき承認可決された。
2. 選挙管理運営に関する手引きについて
選挙管理委員会藤崎氏から、選挙管理運営に関する手引きの改定について提案があった。会員外監事の選任方法についての改定が定款29条に基づき承認可決された。
3. 代議員選挙規程及び選挙運営の手引きの改定に伴う定款細則の改定について
選挙管理委員会藤崎氏から、代議員選挙規程及び選挙運営の手引きの改定に伴う定款細則の改定について提案があった。細則16条, 18条, 21条, 24条, 届出の書式等についての改定が定款29条に基づき承認可決された。
4. 臨時理事会の開催について
選挙管理委員会藤崎氏から、代議員選挙での選挙資格について報告があった。選挙公示前に正会員の確定の必要性があるとして、平成26年3月31日現在での正会員の資格を確定するため、平成26年4月1日に臨時理事会を開催し、入会者の承認審議を行うことが定款31条に基づき承認可決された。
5. 平成26年度定期社員総会 (決算総会) について
中川理事から、平成26年度定期社員総会について下記の通り提案があり、定款29条に基づき承認可決された。
日時 : 平成26年6月1日 (日) 11:00～12:00
場所 : らそうむ スポーツガーデン
6. 北九州ブロック研修会講師承認について
玉野北九州ブロック担当理事から、以下のように研修会講師を依頼することが報告され、経験等講師要件を満たすことが確認され承認可決された。
加藤徳明氏 (産業医科大学病院 医師)
7. 会員の入会について
中川理事から、会員の入会について報告があった。平成25年12月1日から平成26年1月31日までの間に17名の入会があり定款第7条に基づき入会が承認可決された。

VIII. 協議事項

1. 県協会から推薦する会員の他団体主催の研修会参加への取り扱いについて
志井田代表理事から、県協会から推薦する会員の他団体主催の研修会参加について、その旅費等を当会が負担し、その会員は理事会の審議にて決定する対応について提案された。費用の問題などにて継続検討していくこととなった。
2. 第19回福岡県作業療法学会（平成26年度）の学会長および準備委員長の承認について
丹羽学術部担当理事から、平成26年度の第19回福岡県作業療法学会の学会長および準備委員長の報告があった。以下の2名が推薦で挙げられ、承認可決された。
学会長：黒木勝仁氏（恵光会原病院）
準備委員長：日高健二氏（桜十字福岡病院）
3. 県協会事務所移転について
佐藤企画委員会担当理事から、県協会事務所移転の候補地等について報告があり、三役会議にて3月までに決定することで承認可決された。
4. 第48回日本作業療法学会および第16回WFOT国際学会に向けた宿泊案内について
深町福利部担当理事から、会員に対する第48回日本作業療法学会および第16回WFOT国際学会に向けた宿泊予約の支援について提案があり、福利部にて対応していくことが承認された。
5. 福利厚生事業としてのハーモニーランドの利用について
深町福利部担当理事から、ハーモニーランド運営部からの当協会の福利厚生事業として特別優待企画の案内依頼についての報告があった。内容を具体的に再度確認し、協議することとなり、継続検討となった。

IX. 報告事項（特記報告のみ記載。他、資料参照とする）

（代表理事より）

代表理事行動（平成25年12月～平成26年1月）

平成25年第5回公益社団法人福岡県作業療法協会理事会 出席

シティ情報ふくおか取材

日本作業療法士協会 学会運営員会 出席

読売広告社 取材

福岡県作業療法協会 平成25年度第2回三役会 出席

福岡県言語聴覚士会 一般社団法人創立記念式典・祝賀会 出席

「むかしMattoの町があった」を上映する会・北九州 実行委員会 出席

杉原素子先生、富岡詔子先生歓迎会 参加

北九州市すこやか住宅推進協議会 建築・福祉新春交換会・交流会 出席

（中川理事より）

前回理事会にて報告があった中間監査での指摘事項の詳細報告について確認と平成25年度財務会議開催予定報告を行なった。

（選挙管理委員会より）

平成26年度代議員選挙及び役員選挙と選挙日程について報告・確認を行った。

（各部・委員会より）

〈教育部〉

平成26年度九州PT・OT合同学会での演題査読者リストの作成依頼について報告。

〈学術部〉

第18回福岡県作業療法学会開催の進捗状況について報告。平成25年度ジャーナル「作業療法・福岡」について編集・発刊予定。（2月に発刊）

〈福利部〉

動向調査と第16回WFOT国際学会に向けたコミュニケーション・マナーや国際学会の活用法に関する研修会について報告.

〈事業部〉

平成26年度分の作業療法啓発ポスター作成について報告.

〈規約委員会〉

平成26年度日本作業療法士協会特別表彰申請結果について報告. (推薦候補者18名)

〈保健委員会〉

平成26年度診療報酬・介護報酬改定について報告.

〈各ブロック〉

活動報告, 今後の予定報告.

X. 次回開催日

平成26年度 第1回理事会

平成26年5月12日 (月) 19:00~ 場所: 株式会社 らそうむ スポーツガーデン

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学大学院 福岡天神キャンパス (福岡県福岡市) 大川キャンパス (福岡県大川市)

修士課程	【医療福祉学研究科】	●看護学分野 ●ナースプラクティショナー養成分野 ●助産学分野 ●理学療法学分野 ●作業療法学分野 ●言語聴覚分野 ●視覚聴覚学分野 ●福祉援助工学分野 ●リハビリテーション学分野 ●放射線・情報科学分野 ●生殖補助医療胚培養分野 ●医療経営管理分野 ●診療情報アナリスト養成分野 ●医療福祉国際協力学分野 ●先進的ケア・ネットワーク開発研究分野 ●医療福祉学分野 ●医療福祉ジャーナリズム分野	【薬科学研究科】
	保健医療学専攻	●看護学分野 ●助産学分野 ●理学療法学分野 ●作業療法学分野 ●言語聴覚分野 ●視覚聴覚学分野 ●福祉援助工学分野 ●リハビリテーション学分野 ●放射線・情報科学分野 ●生殖補助医療胚培養分野 ●医療福祉経営学分野 ●診療情報管理・分析学分野 ●医療福祉国際協力学分野 ●先進的ケア・ネットワーク開発研究分野 ●医療福祉学分野 ●医療福祉ジャーナリズム分野 ●医療福祉心理学分野	修士課程
	医療福祉経営専攻		生命薬科学専攻
博士課程	臨床心理学専攻		【薬学研究科】
	保健医療学専攻		博士課程
			医療・生命薬学専攻

※専攻、分野によっては、受講できるキャンパスが限られているものもございますので、詳細につきましては、お問い合わせ下さい。※短大卒・3年制専門学校卒で進学可能(修士課程)



- ◆ 社会人の方も働きながら無理なく受講できます
- ◆ 一流教授陣の講義をリアルタイムで受講できます
- ◆ 研究者志向の方のニーズにも対応できます

分野・領域についてのお問い合わせ・資料請求先

福岡天神キャンパス 〒810-0072 福岡県福岡市中央区長浜 1-3-1
TEL 092-739-4321 E-mail fukucamp@iuhw.ac.jp
(平成25年4月より下記に移転予定)
福岡県福岡市早良区百道浜 3-6-40 (福岡国際医療福祉学院内)

大川キャンパス 〒831-8501 福岡県大川市穂津 137-1
TEL 0944-89-2000 E-mail oocamp@iuhw.ac.jp

HP <http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/>

各部・委員会からのお知らせ

【教育部】

1. 主催研修会開催報告

1) 現職者選択研修：発達分野

日 時：平成26年1月19日（日） 10:00～17:10

会 場：麻生リハビリテーション大学校

テーマ&講師：

テーマ1：発達障害領域の基礎知識と作業療法の課題と展望

濱本 孝弘（聖ヨゼフ園）

テーマ2：作業療法の実際①（0歳～就学前）

坂下 竜也（福岡徳州会病院）

テーマ3：作業療法の実際②（就学・学童期・青年期以降）

曾根川 達司（北九州市立総合療育センター）

テーマ4：自閉症スペクトラム障害児に対する作業療法の実際（主に18歳未満）

渡辺 直美（自宅）

参加数：58名（他県士会OT 3名）

2) 地域分野研修会（応用編）

日 時：平成26年1月26日（日） 10:00～15:30

会 場：福岡医健専門学校

テーマ：『地域作業療法を見つめ直す』 ～そもそも作業療法とは？～

講 師：福岡 詔子（信州大学名誉教授）

杉原 素子（国際医療福祉大学大学院 副学院長）

参加数：22名

3) 第1回現職者共通研修

日 時：平成26年2月15日（土）9:30～12:40

会 場：北九州国際会議場

テーマ & 参加数 & 講師：

区分1①作業療法生涯教育概論 26名

福岡県作業療法協会事務局長 中川昇

国際医療福祉大学 有久勝彦

②職業倫理 27名

良創夢リハビリの森デイサービスセンター 手島智康

区分2①作業療法の可能性 23名

福岡県作業療法協会会長 志井田 太一

②事例報告と事例研究 24名

麻生リハビリテーション大学校 青山克実

区分3①保健・医療・福祉と地域支援 22名

国際医療福祉大学 長谷麻由

②実践のための作業療法研究 11名

九州栄養福祉大学 久野真矢

区分4①日本と世界の作業療法の動向 17名

九州栄養福祉大学 大丸幸

②作業療法における協業・後輩育成 27名

北九州リハビリテーション学院 榎本孝史

【筑豊ブロック】

1. 事業企画会議

第6回筑豊ブロック事業企画会議

日 時：平成26年2月10日（月）19:00～21:00

会 場：飯塚記念病院 多目的ホール

参加者：11名

内 容：第6回筑豊ブロック研修会開催報告

事例報告（現職者共通研修）開催報告

広報誌 筑豊OT TIME 第7号について、他

第7回筑豊ブロック事業企画会議

日 時：平成26年3月7日（金）19:00～21:00

会 場：ガスト飯塚店

参加者：3名

内 容：広報誌 筑豊OT TIME第8号について、他

研修会報告

筑豊ブロック事例報告会（現職者共通研修）

期 日：平成26年 1月 16日木曜日 19：00～20：30

参加者：発表者3名、聴講者8名、見学者13名

会 場：飯塚記念病院 多目的ホール

その他

広報誌 筑豊OT TIMES 第7号 2月10日発行

【北九州ブロック】

1. 活動報告

〈北九州ブロック〉

ブロック企画会議開催

平成26年1月20日（月） 19:00～ 曾根東市民センター 大会議室

平成26年3月 3日（月） 19:00～ 曾根東市民センター 大会議室

第18回福岡県作業療法学会準備委員会

日 時：平成26年1月14日（火）19:00～ リハデイ吉木

平成26年2月 7日（火）19:00～ 小倉リハビリテーション病院

第18回福岡県作業療法学会

日 時：平成26年2月15日（土）・16日（日） 北九州国際会議場

〈小倉北・門司エリア〉

エリア事業企画会議開催

平成26年1月16日（木）18:30～ 北九州中央病院

平成26年2月25日（火）18:30～ 北九州中央病院

〈小倉南・京築エリア〉

エリア事業企画会議開催

平成26年2月25日（火）19:00～ 小倉南障害者活動センター

事例検討報告会開催

平成26年1月26日（日）10:00～ 小倉リハビリテーション学院

演題：3題

〈八幡西・遠賀・中間エリア〉

エリア事業企画会議開催

平成26年2月24日（月） 19:00～ リハデイ吉木

エリア研修会開催

平成26年2月20日（木）19:00～ 産業医科大学病院

テーマ：「高次脳機能障害と自動車運転評価について」

講 師：加藤 徳明氏（産業医科大学病院 医師）

〈戸畑・若松・八幡東エリア〉

エリア事業企画会議開催

平成26年1月7日（水）18:30～ あやめの里

平成26年2月4日（火）18:30～ あやめの里

事例検討報告会開催

平成26年2月21日（金）19:00～ 戸畑けんわ病院

演題：6題

平成26年3月 7日（金）19:00～ 芳野病院

演題：4題

【筑後ブロック】

理事

1. 報告事項
 - 1) 活動報告
 - (1) 理事会報告
 - 2) その他
 - (1) 選挙管理委員（筑後ブロック）：岩佐親宏氏

A地区

1. 協議事項
 - 1) 筑後ブロックA地区の事業企画会議を2カ月に1回開催について承認。
2. 報告事項
 - 1) 活動報告
 - (1) A地区事業企画会議：平26年1月22日（水）19:00～20:00
3. その他
 - 1) 平成26年度筑後ブロックA地区運営部員について
 - (1) 平成26年度の運営部員の変更を予定（年度途中にて正式決定する）

B地区

1. 報告事項
 - 1) 活動報告
 - (1) B地区事業企画会議：平成26年1月8日（水）19:00～21:00
 - (2) B地区現職者共通研修 事例検討報告会：平成26年1月15日（水）19:00～21:00
 - 2) 活動予定
 - (1) 平成26年4月にB地区事業企画会議を開催予定
2. その他
 - 1) 運営部員の補充を予定

C地区

1. 協議事項
 - 1) 学術責任者と地区学術担当の兼務について
 - (1) 筑後ブロック学術部責任者とC地区学術担当者の兼務を許可
 - (2) 兼務についてはC地区事業企画会議にて検討し、次回筑後ブロック事業企画会議にて報告。
2. 報告事項
 - 1) 活動報告
 - (1) C地区事業企画会議：平成26年1月20日（月）18:00～19:00
：平成26年3月 3日（月）18:00～19:00

D地区

1. 報告事項
 - 1) 活動報告
 - (1) D地区現職者共通研修 事例検討報告会：平成26年2月7日（金）19:00～21:00
 - 2) 活動予定
 - (1) D地区事業企画会議：平成26年3月10日（月）19:00～21:00

学術

1. 報告事項
 - 1) 活動報告
 - (1) 現職者共通研修 事例検討報告会について
 - ①第3回 現職者共通研修 事例検討報告会（B地区）
 - ・場所：久留米リハビリテーション学院
 - ・参加者（発表者：12名、聴講者：21名、座長：4名）
 - ②第4回 現職者共通研修 事例検討報告会（D地区）
 - ・場所：甘木中央病院

・参加者（発表者：8名、聴講者：20名、座長：2名）

2. その他

1) 平成26年度学術責任者の変更：岩佐親宏氏→上村佳代氏（C地区）

教育

1. 報告事項

1) 活動予定

(1) 筑後ブロック分野別研修会を開催予定：2回／年（日程未定）

2. その他

1) 平成26年度教育責任者および運営部員の変更

(1) 責任者変更：中満篤子氏→長彰純氏（久留米リハビリテーション学院）

(2) 委員変更（年度途中にて補充予定、業務伝達期間増員する）

① 発達分野：安部久実氏→中満篤子氏（新加入者検討する）

② 精神分野：長彰純氏が責任者となり兼務する（新加入者検討する）

会計

1. 報告事項：

1) 領収書の変更

(1) 複写式領収書から複写なし領収書への統一化を行う

2) 会計の書類について

(1) 報告書記載事項の説明（事業No、公1など必要事項記載の徹底）

事務

1. 協議事項

1) 議事録提出方法再確認

2) 会計報告方法再確認

2. 報告事項

1) 活動報告

(1) 筑後ブロック事業企画会議（代表者）：平成26年2月20日（木）19:30～22:00

2) 活動予定

(1) 筑後ブロック事業企画会議（全体会議）：平成26年4月21日（月）19:30～22:00

(2) 平成26年度 筑後ブロック全体親睦会予定（5月or6月の金曜日実施予定）

3. その他

1) 平成26年度運営部員変更（総務、会計）

(1) 総務変更（事務局責任者兼務）：永田敬生氏→原口正邦氏

(2) 会計：木村真弓氏→村田宜啓氏

(3) 引き継ぎ実施（引き継ぎ期間数カ月予定）

病院名 医療法人恵真会 **渡辺整形外科病院**

【募集職種】 作業療法士（新卒・既卒）
【募集人員】 若干名（退職に伴う欠員補充）
【雇用形態】 正職員
【給 与】 208,000円～
（実務経験を加味し算定します）
【賞 与】 年2回 3,5か月（H25年度実績）
【勤務時間】 8：30～18：00
【休 日】 4週6休 祝祭日 年末年始 お盆
【福利厚生】 各種保険完備、育児介護休業制度あり、学会・研修会補助（法人規定）、退職金制度ほか
【その他】 住宅手当、交通費など法人規定によるマイカー通勤可
【備考】 糸島市にある59床の病院です。リハビリテーション部はPT14名OT5名の活気ある職場です。
【連絡先】
住所：糸島市前原1811-1
T e l : 092-323-0013 F A X : 092-323-5277
担当者名：リハビリテーション部長 井手満雄

病院名 社団法人 宗像医師会病院

【募集職種】 作業療法士
【募集人員】 1名
【雇用形態】 正職員
【給 与】 基本給（本人給・職能給）、役職手当、危険手当、調整手当、家族手当、育児手当、住宅手当、通勤手当、特殊勤務手当、夜勤手当、宿日直手当、時間外勤務手当、休日勤務手当、退職金制度あり 他
【賞 与】 年2回（人事考課制有）
【勤務時間】 08:30～17:15
【休 日】 土日祝 他
【福利厚生】 職員食堂有（補助）、旅行（補助）、財形貯蓄制度、院内保育所あり 他
【その他】 交通費 4万円まで支給
【備考】 急性期疾患を中心とする地域の中核病院
※詳しくは、ホームページを参照して下さい。
【連絡先】 宗像医師会病院 総務課
T e l 0940(37)1188
〒811-3431 福岡県宗像市田熊五丁目5番3号

病院名 医療法人社団親和会 共立病院

【募集職種】 作業療法士
【募集人員】 2名
【雇用形態】 正職員
【給 与】 242,863円～ 年収約368万円～
【賞 与】 年2回 4.0ヶ月
【勤務時間】 8：30～17：00（実働7時間30分）
【休 日】 月9～10日 年間休日111日
シフト制
【福利厚生】 住宅手当（世帯主のみ）12,000円/月
家族手当 各種社会保険完備・退職金制度あり
【その他】 交通費支給 50,000円限度
マイカー通勤可
【備考】 当院は飯塚市に189床のケアミックス型の病院です。欠員補充ではなく、リハビリ体制の充実の為の増員です。
【連絡先】 〒820-0044
福岡県飯塚市横田770-3 共立病院 事務 福島
TEL：0948-22-0725 FAX：0948-28-9137
施設見学等も可能です。ご希望の方は電話連絡後、対応させていただきます。

ウエルファ筑前（デイサービス）

【募集職種】 作業療法士（機能訓練指導員）
【募集人員】 1名
【雇用形態】 正社員
【給 与】 230,000円～250,000円
【賞 与】 月額（二ヶ月）
※夏季一ヶ月、冬季一ヶ月
【勤務時間】 8：30～17：30
【休 日】 週休二日（土・日）
【保険】 健康、雇用、労災、厚生
【その他】 交通費
【業務内容】 デイサービスにおける通所者へのリハビリテーション機能訓練・歩行訓練・ADL訓練
一日当たりのデイサービス利用者数 約20名
【連絡先】
〒838-0814
福岡県朝倉郡筑前町高田2315-3
TEL：0946-21-5988
FAX：0946-21-5987
担当：西末

病院名 那珂川町 療育指導教室
「にじいろキッズ」

【募集職種】 作業療法士
【募集人員】 1名
【雇用形態】 嘱託職員（平成26年4月～28年3月）
【給 与】 192,800円
【賞 与】 なし
【勤務時間】 8：30～17：00（実働7時間45分）
【休 日】 土・日曜、祝祭日、夏季休暇、年末年始の休暇（12/29～1/3）、年休20日
【福利厚生】 社会保険・雇用保険
【その他】 通勤手当・扶養手当等なし
【備 考】 当該施設は、町内の発達障害の子や保護者を対象とした療育施設です。
【募集期限】 平成26年2月28日（金）面接日は3月上旬を予定しています。
【連絡先】 811-1292
福岡県筑紫郡那珂川町西隈1-1-1
那珂川町役場 健康福祉部 福祉課 福祉担当 榎崎
Tel：092-953-2211 f a x：092-953-0688
E-mail fukusi@town.nakagawa.fukuoka.jp

宇美町立こども療育センター
「すくすく」

【募集職種】 作業療法士
【募集人員】 1名
【報 酬】 日額12,000円
【勤務時間等】 10：00～16：00 2日／月
※勤務の曜日等はお問い合わせください。
【所在地】
糟屋郡宇美町貴船2丁目40番2号
電話092-934-3933
【連絡・お問い合わせ先】
宇美町役場 健康福祉課 健康づくり推進室
糟屋郡宇美町貴船2丁目28番1号
電話092-933-0777 Fax092-933-0210
担当：山下

病院名 筑紫野市社会福祉協議会
（さるびあ学園）

【募集職種】 作業療法士1名・言語聴覚士1名
【雇用形態】 嘱託職員
【給 与】 185,800円
【賞 与】 年2回
【勤務時間】 8：30～17：00
【休 日】 土・日曜日、祝日、年末年始
【福利厚生】 各種保険完備・退職金制度あり
【その他】 昇給制度あり、扶養手当、通勤手当（規程内支給）等支給、年次有給休暇あり
【応募期間】 平成26年4月11日（金）17時まで
【応募方法】 応募方法など職員募集の詳細につきましては、筑紫野市社会福祉協議会ホームページで確認してください。
【連絡先】
社会福祉法人筑紫野市社会福祉協議会
〒818-0013 筑紫野市岡田3丁目11-1 ほほえみタウンB棟2階
Tel092-926-7800（施設担当・さるびあ学園）
<http://www.chiku-syakyou.or.jp/>

体に合った車いす・目的に合った車いす
をご提供します
車いす・介護用品・福祉用具レンタル



本社／福岡市中央区天神5-4-15
営業本部／糟屋郡粕屋町仲原3丁目9-20
TEL／092-938-2208
HP／<http://www.takisokai.co.jp>

タキ商会

遠賀中間医師会おかがき病院 高崎弘嗣

はじめまして、遠賀中間医師会おかがき病院の高崎弘嗣と申します。今回このような機会を頂きありがとうございます。この機会を通じ、当院及び、私について紹介させて頂きたいと思います。

当院は遠賀郡岡垣町大字手野にあります。ちょうど福岡市と北九州市の中間地点の海岸近くです。岡垣町は自然豊かな地で特に果物（びわ・イチゴ・無花果・巨峰）が特産品です。また海からはウミガメが産卵に来たり、山からはいのししが下りてきたりと四季を目と鼻と口で感じる事が出来ます。もちろん当院も草木が茂り、波の音が聞こえる環境です。その様な自然豊かな地で当院は「いつも心のこもった挨拶と溢れる笑顔で」を理念に日々の診療を行っています。当院は病床数100床（回復期リハビリテーション病棟50床、医療型療養病棟50床）、重度認知症デイケア、在宅診療部を有し、セラピスト数はPT：21名OT：20名ST：3名と計44名で、OTはリハビリテーションセンター、重度認知症デイケア、在宅診療部で働いています。当院のリハビリテーションの特徴は月に1回面談を実施し、患者さん・ご家族・医師・看護師・リハスタッフ・地域連携室スタッフが一堂に会し、患者さんの病状の説明や今後の方針について話し合い、リハビリを進めていることです。また家屋状況の確認、外出訓練を積極的に取り入れ、地域生活にスムーズに復帰し、活気ある生活が送れるように努めています。

さてその様な環境で働いている私ですが、OTとなり11年が経ちました。途中演劇活動に身を置いたり、パティシエとなりケーキを作ったりとOTとは無関係な仕事に就いた事もありました。身勝手は承知ですが、人は自由である事、人生は人それぞれである事を体現してきました。その後OTに復帰し、臨床経験はいつの間にか7年にもなっていました。その中で多くの患者さんと出会い、別れてきました。

私が作業療法を通じ大切にしている事はどうしたらその方らしい人生を生き、元気に過ごし、そして温かく、穏やかに亡くなる事が出来るかということです。私は病院でOTとして働き、出来る限り主体的な生活が送れるようになることを目標にリハビリを提供してきたつもりです。しかし、退院をした方の本当の幸せ、想いにどこまで添うことが出来たのだろうかと自問する事が度々ありました。そんなおり、昨年末の忘年会の席で先輩から「退院した後の生活を見たらええやん」「自分が気になるなら行かんね」と言葉をかけて頂きました。私はある形にとらわれ、もっと自由に患者さんを知ればいいのだと改めて気づかされました。それから機会があれば、退院後の様子を何うようにしました。そこで気づいたことは意外と退院した患者さんは楽しそうに過ごしているということでした。そこには友達と外食したり、家でごろごろしたりと日常がありました。中には転倒したり、体重が減っていたりする方もおられました。これらのことは外にでないと感じることができませんでした。また入院中に行ったりリハビリも活かされており、嬉しく思うこともありました。例えば人工骨頭置換術後の方に入浴訓練を繰り返し行ったことが自宅での入浴に活かされていたり、住宅改修が上手くいき、自宅内での行動範囲が広がったりしていました。このように地域で生活している患者さんを知ることで、患者さんが何を楽しみにし、何を日課としているのかを目で見て感じる事ができました。私はありのままの日常に入り込んでリハビリを提供する必要があると感じました。そして患者さんの笑顔のため、一緒に泣き笑いしていきたいと感じました。最後になりますがここまで私が作業療法士生活を送ることができたのは、家族の支え、おかがき病院のスタッフの明るさ、そして福岡県作業療法協会の心優しく、寛大な先輩方がおられたからです、本当にありがとうございます。拙い文章でしたが最後まで読んで頂きありがとうございました。



リレーエッセイ

特定医療法人茜会北九州市立門司病院 藤嶋厚志

春光うらかな季節を迎え、皆様方におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。

はじめまして。特定医療法人茜会北九州市立門司病院の藤嶋厚志と申します。

当院は2009年4月より、医療法人茜会が指定管理者として経営の委託を受けました。回復期50床、亜急性期18床、開放病床5床、医療療養27床、結核55床の合計155床を有します。リハビリ対象疾患は脳血管疾患が5～6割、運動器疾患3～4割、呼吸器疾患1～2割を占めます。

当法人リハビリテーション部では、平成21年よりリハビリテーション工学部というチームを立ち上げ、ロボットや機械などを使用した先進的なリハビリに取り組んでいます。開設当初より、HAL、HANDS、などを導入し、より効果的なリハビリテーションを患者様に提供できるよう日々努力しています。

しかし、チーム発足時は、ロボットの運用について大変苦戦しました。ロボットに関する全般的な知識不足、対象者の選定の難しさ、効果判定の困難さ、使用において人手や時間がかかることなど、有効な使用方法を模索する日々でした。4年間を経過する中で、研究大会の開催および研修会への参加や、他の医療機関との情報交換を積極的に行い、たくさんの患者様にも協力して頂いたことで、活用方法についてのアイデアやバリエーションが増え、今では患者様にも喜ばれるようになってきております。

このロボットリハビリの経験を通して、改めてリハビリは人間が行うものだということを実感しています。ロボットの持つ特性を生かすには、それを扱う人の熱心さや患者様への誠意が重要と考えています。私は、人と人とのつながりを大事にしながら、『明るく 楽しく 元気よく』をモットーに、今日も業務に励んでおります。



介護老人保健施設 宗像アコール 安永昌徳

皆さん、こんにちは。

私が勤務する介護老人保健施設・宗像アコールは、宗像市に二つしかない老健のひとつで、宗像市のほぼ真ん中辺りにあります。

近年はうちの施設に限らず、老健に対する地域のニーズは日に日に多様化してきています。以前は入所やショートステイのご利用者様に「心身機能の維持」や「生活の中の楽しみ」獲得に向けた関わりが多かったように思います。しかし最近では、病気を発症して間もない方への機能訓練、また認知症の方には、ご家族から認知面での改善や変化を期待される場面が多くなっています。そのためリハビリの効果をご家族や他職種へわかりやすい形で示すことも必要となっています。

私はデイケアと訪問リハ業務を兼務しています。在宅で生活する利用者様が安心して、出来るだけ長く自宅での生活が継続できるように、またご家族が介護で困らないよう生活現場での実践や、生活リハに向けたアドバイスを行います。そのためご自宅に伺った際は生活環境や、利用者様本人の変化をすぐに把握できるよう努めています。当たり前ですが、利用者様の状態はずっと同じではありません。そのため、まさに「その時」「その瞬間」を逃さないよう、常にアンテナを張る努力をしています。

在宅にいる利用者様は自分のテリトリーで、まさに「くつろいでいる」状況下にこちらはお伺いするため、いつも訪問時は緊張の連続です。私は出来るだけ安心して頂けるよう「良いオーラ」を出すよう心がけています。時には難しい局面に出くわすこともありますが、最近は「難しいこと」と「面白いこと」は実は同じだ！と前向きに考えるようになりました。

OTは何と言っても一瞬、一瞬が勝負です。その機を逃さず、そのタイミングに全力で関わられるよう日頃から自分の私生活の中での「作業療法の実践」が大切だと思います。そして日々の実践した貯金が臨床場面では発揮されると信じています。



第18回福岡県作業療法学会 報告！

平成26年2月15日（土）・10（日）、北九州国際会議場にて、第18回福岡県作業療法学会が開催されました。

学会前日まで大雪の影響で交通機関が乱れ、心配していましたが、学会当日はなんとか天候は回復し、2日間で延べ参加者は総数413名（実数233名）、市民公開講座においては参加総数120名（市民66名）と昨年に引き続き、大きなトラブルもなく無事、かつ盛大に開催されました。

これも、田中学会長、井出準備委員長をはじめとする北九州ブロックの準備委員皆様のご尽力の賜物であると感謝しております。

一般演題（口述・ポスター）は、今年度から初めて査読システムを導入したにも拘わらず、昨年とほぼ同数である47演題の発表数となり、会員の学術研鑽への意識の高まりを感じました。基調講演では、「地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割」というテーマで佐藤孝臣先生（株式会社ライフラー代表取締役・作業療法士）にご講演いただきました。講義では大分県での地域ケア会議に参加される中で、我々作業療法士の地域における役割の重要性、地域ケア会議で助言できる作業療法士の育成が急務であること等について熱く語られ、今年は作業療法士にとって市長町の期待に応え存在意義を示していく必要性を感じさせられました。教育セミナーにおいては、長谷麻由先生（国際医療福祉大学福岡保健医療学部・作業療法士）に「生活行為向上マネジメント ～人は作業をすることで元気になれる～」をテーマに、佐野幹剛先生（九州栄養福祉大学・作業療法士）に「特別支援教育における学童期の問題と支援の実際」をテーマに、小川敬之先生（九州保健福祉大学・作業療法士）に「認知症初期集中チームと作業療法士」をテーマにご講演いただきました。どれも厚生労働省、日本作業療法士協会が重要課題として取り組んでいるテーマであり、協会員にとっては今後の業務に大いに役に立つ内容でした。また、ワークショップとして原麻理子先生（国際医療福祉大学福岡保健医療学部・作業療法士）に「高次脳機能障害の作業療法」をテーマに講演いただき、協会員皆、熱のこもった討議が展開されました。さらにはこれからの作業療法を担う先生方による未来講演では、高橋知義先生（こぐま福祉会・作業療法士）に「発達領域のICT活用支援 ～臨床に活かせる技術とアイデアを伝えます～」をテーマに、坂口聡子先生（コールメディカルクリニック福岡・作業療法士）に「在宅ホスピス・緩和ケアにおける作業療法の取り組み ～「生」の時間と空間の充実を目指して～」をテーマに、藤江愛先生（行橋記念病院・作業療法士）と黒木由貴子先生（浅野社会復帰センター・精神保健福祉士）に「長期入院患者への退院支援について ～数十年の入院を経て地域に再び戻ることの意味を考える～」をテーマに講演いただき、参加者と共に熱く議論しました。このように今年度は多彩な講演メニューでしたが、どれもタイムリーなテーマであり、活発な討議が展開されたのではないかと思います。

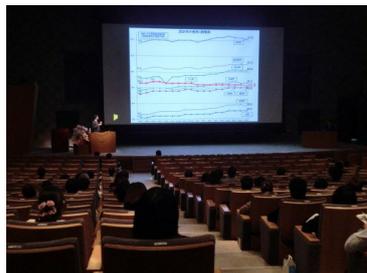
この他、ブース企画として、「作業療法紹介」「リハビリ・進路相談」「福祉機器紹介、障害・高齢者体験」「ロボット機器展示・体験」「学習支援教材紹介」「作品展示」の他、障害のある方々の手作り商品販売する北九州唯一のアンテナショップ「一丁目の元気」による手作り弁当やお菓子、小物等の販売、さらには「書籍販売（井上書店）」と多くのブースで、一般市民と協会員の皆様の交流が展開されました。

そして、今回の市民公開講座は、1982年度ミス・インターナショナル準日本代表に選出されファッションモデルとして活躍中、交通事故で頸椎損傷となり、その後、車椅子での生活が余儀される中、車椅子の国際競技大会などにも出場し、1982年アテネパラリンピック射撃日本代表として出場、現在は講演や企業のユニバーサルデザイン商品の開発を行う等、バリアフリーな社会を目指して活躍されている鈴木ひとみさんに「車椅子からの出発（たびだち）～絶望の淵から這い上がるまでの軌跡～」をテーマにご講演いただきました。鈴木ひとみさんの著書は「車椅子の花嫁」としてもドラマ化されておりますが、ご本人が事故の後、2年間の入院生活の中でどのように立ち直っていったのかを切実に語っていただきました。その講演からは「人は皆価値のある人間である」といった思い、また皆が人生を充実させて生きていく為の住みやすい街づくりへの思いが伝わり、参加者120名（内市民が66名）の各々が、その生き様に感動し勇気をいただくと共に、福祉の本質を勉強させられました。また、今回は初日の学会後、懇親会も開催され、“気迫のある、そして愉快”な演舞、歌、踊りで講師、参加者一同盛り上がりました。懇親会後も皆、北九州の夜を堪能したことでしょう！

このように、今回の学会テーマである「今伝えたい作業療法 ～広く、深く、そして一歩前に～」にふさわしい内容であり大成功の内に幕を閉じたと自負しております。各講師の皆様、市民公開講座に参加して頂いた市民の方々を含め、学会参加者の皆様、本当にありがとうございました。

第19回福岡県作業療法学会は福岡ブロックでの開催であり、もう既に準備委員会が立ち上がり企画に入っております。また盛大な祭典となることを期待するとともに、学術部としても、会員の自己研鑽、そして市民の皆様への専門技術の還元の間となるよう、学会開催にさらに尽力いたす所存です。

最後になりましたが、市民公開講座の前に、北九州市長北橋健治様から学会へのご祝辞、また市民の皆様へご挨拶をいただき心より感謝申し上げます。また今回の学会にご協力いただきました北九州市関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



基調講演



教育セミナー



未来講演



ブース展示



ワークショップ



市民公開講座
(市民からの花束贈呈)

学術部担当理事 丹羽 敦

会員動向調査

調査期間 (2013. 12. 7~2014. 3. 6)

福岡県作業療法協会 会員数2,544名 (正会員2,309 自宅会員235名)

<入会>

林 香苗	浅木病院	: 2013年9月	真名井 朋子	ケアセンター	ひまわり苑 (千鳥橋病院より)
杉本 亘	新行橋病院	: 2014年1月			: 2013年10月
北崎 有紀	福岡青洲病院	: 2013年12月			(自宅より)
山口 しおり	福岡青洲病院	: 2013年12月	苗村 俊介	自宅	: 2013年12月
川野 真維	北九州古賀病院	: 2013年12月			(太田脳神経外科医院より)
尾上 諒介	国立病院機構福岡東医療センター	: 2013年12月	新本 のぞみ	自宅	: 2014年1月 (友田病院より)
繁田 雅斗	福岡リハビリテーション病院	: 2013年12月	小峠 佳那子	自宅	: 2013年12月 (介護老人保健施設 ふる里より)
山口 万利子	福岡リハビリテーション病院	: 2013年12月	吉野 敬子	自宅	: 2014年1月 (原病院より)
平野 貴之	福岡リハビリテーション病院	: 2014年1月	荒木 あき	デイサービスセンターあいあい田川	: 2013年4月 (介護老人保健施設 あじさいより)
松瀬 寛則	福岡和白病院	: 2013年12月	古賀 智子	自宅	: 2014年1月 (医療法人 CLS すがはら より)
香月 祐也	千鳥橋病院	: 2013年12月	藤吉 理沙	自宅	: 2013年9月 (甘木中央病院より)
緒方 いづみ	福岡徳洲会病院	: 2013年12月	高山 和規	自宅	: 2014年2月 (NPO法人 リプロ より)
今戸 達也	中村病院	: 2013年12月			
豊福 琢磨	自宅	: 2014年 1月			
葛原 僚	嘉麻良夢創デイサービスセンター	: 2013年12月			
龍頭 文也	八女リハビリ病院	: 2013年12月	<退会者>		
山本 顕史	八女リハビリ病院	: 2014年1月	田中 千代子		: 2014年2月
甲斐 聡美	こぐま福祉会	: 2014年2月	中村 朋子		: 2014年2月
藤崎 佑唯	大牟田記念病院	: 2013年11月	河野 貴則		: 2014年3月
<県内移動>			中尾 香織		: 2014年3月
濱田 学	産業医科大学	: 2013年12月 (産業医科大学 若松病院より)	山本 恭子		: 2014年1月
濱中 裕美	おんが病院	: 2014年1月 (北九州市立八幡病院より)	小川 明子		: 2014年1月
田中 聡	(株) リライブ吉木	: 2014年1月 (自宅より)	矢動丸 智子		: 2014年1月
朝倉 和沙	介護老人保健施設やすらぎ	: 2013年12月 (新行橋病院より)	目野 昭治		: 2013年12月
一ノ瀬 拓朗	小倉記念病院	: 2013年12月 (遠賀病院より)	奥村 幸恵		: 2014年2月
曾山 裕子	相生リハビリテーションクリニック	: 2013年10月 (丘ノ規病院より)	田中 美徳		: 2014年1月
今任 洋就	北九州古賀病院	: 2013年12月 (北九州中央病院より)	石井 道子		: 2013年12月
高田 潤	北九州古賀病院	: 2014年3月 (牟田共立病院より)	西村 法子		: 2014年2月
木下 博光	ライズデイサービス ひかりの里	: 2013年12月 (ライズケアセンターより)	日野 さと子		: 2014年2月
松本 秀一	福岡和白病院	: 2013年5月 (香椎丘リハビリテーション病院より)	山下 加奈		: 2014年2月
北村 優也	たたらリハビリテーション病院	: 2013年10月	北村 亜由美		: 2014年2月
			堀田 かおり		: 2014年2月
			中野 桂子		: 2014年2月
			田原 千佳子		: 2014年2月
			田川 あき子		: 2014年1月
			瓜生田 知奈		: 2014年1月
			木下 あゆみ		: 2014年1月
			阿部 恭子		: 2013年12月
			外薮 富貴		: 2013年12月
			北野 恵		: 2013年12月
			秋吉 良美		: 2014年2月
			濱崎 育美		: 2014年2月
			原田 絵理		: 2014年2月
			橋口 麻寿美		: 2014年1月
			徳永 裕美		: 2013年12月

西久保 厚子 : 2014年1月
三浦 ゆかり : 2014年1月

会員の皆様へ

これまで、会員の皆様の異動状況を会報にて報告してまいりましたが、「事務所へ報告はするが、会報への掲載は望まない」という要望もごございます。異動等の報告の際、会報への掲載を希望されない場合は所定の用紙（異動届等）にその旨ご記入ください。

異動の際の手続きについて

職場・自宅等の変更のあった方は、必ず文書で県協会事務局へご連絡下さい。

協会ホームページ (<http://www.fuku-ot.org/>) へアクセスし、入会・異動・退会の項から届出用紙をダウンロードして下さい。

用紙に異動前・後の施設名、郵便番号、住所、電話番号を明記して下さい。自宅住所の変更もお忘れなくお願いします。

ご不明な点は、福岡県作業療法協会事務所までお問い合わせ下さい。

TEL 093-952-7587

編集後記

オレンジプランの一つの柱である認知症初期支援チームの概要が少しずつ具体的になってきています。今回のトピックスにも記載されていますが、元はイギリスの認知症国家戦略をモデルにしたことが背景にあり、チームに作業療法士の名が連なっています。このことは作業療法士にとって大きなチャンスであり、チーム発足にあたり作業療法士が必要不可欠な存在であることを積極的にアピールする必要があります。また日本作業療法士協会でも具体的な対応策を講じており、協会HPからも認知症初期集中支援チーム対応プロジェクトに関する工程表や作業療法士の視点・役割についてダウンロードできるようになっています。認知症患者の推定患者数は先の調査にて462万人と発表されています。老年期分野、認知症医療に携わる方に限らず、今後の国の動きに注目しつつ、作業療法士ならではの支援ができる準備をしておく必要があります。

(s 沼)